

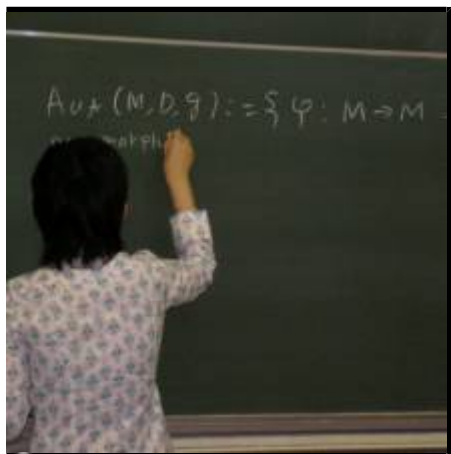
第11回

- 講演者：北川 友美子（奈良女子大学）
 - 題目□ On subriemannian contact manifolds
 - 日時：平成17年 11月 9日(水) 17:30 ～ 18:30

滑らかな多様体 M 上の接分布 D とその上のリーマン計量 g が与えられているとき、組 $((M, D, g))$ を一般にサブリーマン多様体と呼びます。特に、 $((M, D))$ が接触多様体のとき $((M, D, g))$ をサブリーマン接触多様体といいます。これはサブリーマン多様体の中でも非自明でかつ最も典型的なものです。

二つのサブリーマン多様体の間に、構造 $((D, g))$ を不変にするような微分同相写像 (ϕ) が存在するとき、その二つは同型であるといいます。特に二つのサブリーマン多様体と同じものであるとき、このような (ϕ) を自己同型写像と呼び、これら全体のなす群をサブリーマン多様体の自己同型群と呼びます。

リーマン多様体の自己同型群が有限次元のリー群をなすことは良く知られていますが、サブリーマン多様体の自己同型群については、これまでまだあまり研究されていません。本講演では、サブリーマン接触多様体の自己同型群について考察し、得られた結果を報告します。



.lg-outer.lg-pull-caption-up.lg-thumb-open .lg-sub-html {bottom:80px;}

4 images

[<6>]

From:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/seminar/2005/011>

Last update: **2017/11/17 18:17**

